

# 昭和館 だより

高等学校用  
第3号

特別企画展

## 学生たちの戦中・戦後 ～忘れえぬ青春の記憶～

昭和二十二年（一九四七）四月より六・三制といわれる学校制度がスタートしました。これは戦後の教育制度改革の一環として実施されたもので、平成十九年（二〇〇七）はそれから六十周年にあたります。戦前期の複雑な学校制度、戦中期の教育年限短縮、勤労動員や在学者徴兵猶予停止による学徒出陣、そして戦後の混乱期の様子や新学制への移行など、学生・生徒たちを取り巻く状況や、その学校生活は大きく変化しました。昭和館でこれまで収集してきた多くの学校関係資料を中心に、写真、図解、学制にまつわる体験談パネルを交え、戦中・戦後の激動の時代、学校制度はどのように変化したのか、学生・生徒たちはどのような学校生活を送ったのかを紹介しました。

昭和館では  
「学生たちの戦中・戦後  
～忘れえぬ青春の記憶～」と  
題して、  
平成19年7月28日(土)から  
9月2日(日)にかけて、  
特別企画展を開催しました。



来場した高校生に特別企画展について感じたことを書いていただきました。

- 当時に比べて、好きなものを食べ、好きな服を着れる現代の生活はとても便利であり、学生生活も恵まれていることがわかった。
- 当時の学生たちの写真、文章を通じて、困難な状況においても熱意をなくさなかった学校生活の様子が浮かび上がり、勉強にやる意味合いを考え直すことができた。
- 特展用パンフレットが、写真や説明が豊富で、大変分かりやすかった。
- 加藤武さんの当時の学生生活を語る講演会に感動した。
- 当時の学生生活に関する展示品の豊富さに驚くと共に、とてもよく当時の状況がわかった。

次回の特別企画展

**オリンピック 栄光とその影に**  
～アムステルダム大会から東京大会まで～  
平成20年2月23日(土)～  
4月10日(木)

本展では、昭和に入って最初のオリンピックである第9回アムステルダム大会から戦後の第18回東京大会までを通して、各時代におけるオリンピックの姿や日本とオリンピックの関わり、戦争とオリンピック、出征したオリンピック選手たちなどを交えながら日本人メダリストの活躍やエピソードなどを紹介します。

# 歴史を語るこの一枚



電話線の修理をする米兵  
(昭和20年10月頃 長崎県佐世保)  
進駐軍という、敗戦国日本を占領した印象が強いと思います。しかし、この写真のように、電線を修理し、日本の復興に協力するとともに、子供たちとのふれあいも各所で見られました。

## 映像や写真が見られる！本や雑誌をさがす！

映像・音響室や図書室では、さまざまな映像資料や図書資料等を検索することができます。簡単に検索できますが、どんなキーワードで検索したらよいか迷っている人は、「疎開」とか「空襲」などで検索してみるとおもしろい資料を見つけられかもしれません。今回は「疎開」をテーマに、記録写真の検索方法を紹介してみよう。

①画面にある項目から自分の調べたいものを選びます。タッチパネルなので、画面に指で触れるだけで操作できます。マウスによる操作も可能です。今回は「記録写真」を選んでみました。

②次の画面では、調べてみたい「テーマ」や年代からさがすことができます。今回は、「タイトルやことばから調べる」を選択して、「疎開」と入力してみました。

③「疎開」に関する写真が一覧として表示されました。左上には該当件数が表示されるので、全部で何枚の写真があるのかわかるようになりました。調べたい資料名に触れてみましょう。

④すると詳細画面が表示されます。右側に資料名、撮影者、撮影地、撮影年月、資料説明等が左側に写真が表示されます。このようにして色々な資料をさがしてみよう。

### ぶっくらぶ ～蔵書紹介～

### 『ジュニアそれいゆ』 『スタイル』



『ジュニアそれいゆ』は、昭和28年に「十代のひとの美しい心と暮しを育てる」をキャッチフレーズにティーンエイジャーのための雑誌として、中原淳一が創刊しました。かわいくて手軽にできる手作りのページが多彩で、当時、少女たちの夢と憧れ、知性を届け、いわばトレンドの教科書として、さまざまな読者を楽しませたそうです。今読んでも充分楽しめます。

### ジュニア・インターンシップ

ハローワーク(飯田橋職業安定所)のジュニア・インターンシップ(就業体験)事業に協力して、東京都千代田区内にある神田女学院高等学校(2名)、東洋高等学校(3名)の生徒を、8月1日から3日、22日から24日の間、それぞれ受け入れました。

職員の指導のもと、広報資料の作成、受付・案内要員の補助、図書資料の補修作業、映像、音響資料の作成など、実際の業務を体験しました。どの生徒も、真剣かつ意欲的に作業に取り組み、できあがった広報資料や映像・音響資料などの作品は、職員たちも驚く見事な出来映えでした。

生徒たちからは、実習を終えて、普段なじみのない歴史資料館の仕組み、業務内容等を知ることができ、また働くことの素晴らしさを学ぶことができたなどの感想をいただきました。



### 展示室から ～收藏品紹介～

#### 電球(灯火管制用)

7階常設展示室「銃後の備えと空襲」のブースにある資料です。電球の中心部分だけが光を通し、電灯の真下だけを照らし、家の外に灯りが漏れないようになっています。「灯火管制」とは夜間の空襲に備え、照明を暗くしたり、暗幕で光が漏れないようにしたり、消灯することです。昭和13年(1938)4月に「灯火管制規則」が公布され、家庭内はもちろん、街路灯や工場・商店などでも、電灯に覆いをするなど様々な工夫をしました。また空襲を想定して、灯火管制・消火・防毒・退避・救護などの防空訓練が日常的に行われるようになりました。



ご意見をお聞かせ下さい。  
本紙を読まれたご感想、昭和館へのご意見、また実際に見学された際のご感想等を下記にお送り下さい。  
今後の編集と、館の運営の参考にさせていただきます。

**昭和館** 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1  
昭和館 総務課  
FAX.03-3222-2575 toiwase@showakan.go.jp